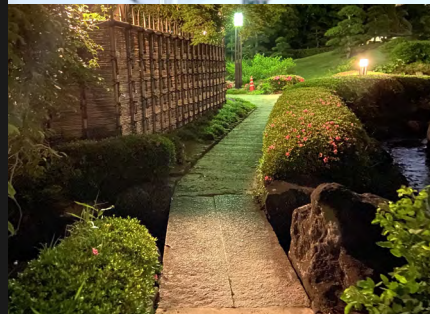
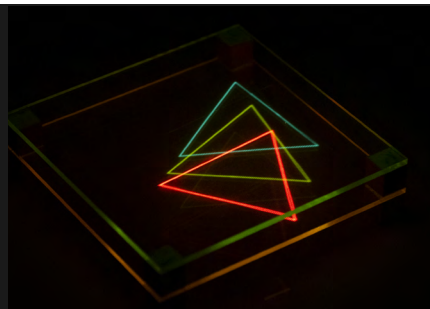


夜の日本庭園を舞台にした展覧会

『生態系へのジャックイン展』が7月24日(土)より開催!

現代アーティストやサウンドアーティスト、映像作家、建築家、研究者、SF作家など多分野で活躍する気鋭のアーティストの作品が集結します。



日本庭園を舞台に、自然とテクノロジーとアートの結節点となる作品たちを茶の湯のプロセスになぞらえて展示します。

文化芸術を育む都市の形を研究する一般社団法人 METACITY 推進協議会は、2021年7月24日(土)から8月8日(日)までの15日間(※8月2日は休館日)、千葉県千葉市の日本庭園「見浜園」を舞台に、「千の葉の芸術祭」のプログラムとして、夜間限定の展覧会『生態系へのジャックイン展』を開催いたします。

本展は日本庭園という、自然を人為的に再構成することで本来以上の意味を創造する拡張環境を舞台に、自然と技術とアートの結節点となる作品たちを茶の湯のプロセスになぞらえて配置します。夜の帳に包まれた庭園を回遊しながら、景観とともに作品を鑑賞することで、自分を取り囲む生態系を再発見する展覧会です。

▶ 出展アーティスト

石川 将也、ALTERNATIVE MACHINE、後藤 映則、The TEA-ROOM、齋藤 帆奈、関野 らん、滝戸ドリタ、多層都市「幕張市」、田中 堅大、田中浩也研究室 + METACITY、Dead Channel JP、ノガミ カツキ、松田 将英、Ray Kunimoto

▶ 開催概要

『生態系へのジャックイン展』

会期： 2021年7月24日(土)～8月8日(日)

※8月2日(月)休館日(見浜園は通常営業)

時間： 18:00 - 21:00 (最終入場 20:30)

会場： 日本庭園「見浜園」(千葉県千葉市美浜区ひび野2-116 県立幕張海浜公園内)

交通アクセス： JR京葉線「海浜幕張」駅南口より徒歩約10分

入場料： 無料(事前予約制)

▶ Web サイト

<https://2021.metacity.jp>

Facebook
Instagram
Twitter

<https://www.facebook.com/METACITY.JP>
<https://www.instagram.com/metacity.jp/>
https://twitter.com/metacity_jp

『生態系へのジャックイン展』コンセプト

伝説的 SF 小説『ニューロマンサー』は千葉の空を見上げるシーンから始まりました。サイバースペースへとジャックインする主人公たちの姿はどことなく、都市計画とインターネットという二重のグリッドに囚われた今のわたしたちに似ています。そこは無限に広がっているようでどこか寂しい、人間だけの世界です。わたしたちはいかにして多様な生物／無生物がひしめく世界へと帰還できるのでしょうか？

かつて、地球規模で互いの思考が接続されることで人間は形而上学的な知識の生態系“*Noosphere*（ノウアスフィア | 精神圏）”の中に住まうようになる、と言われました。生物ごとの多様な世界の捉え方が明らかになりつつある今、わたしたちは人間だけに留まらないあらたな *Noosphere* を描きだせるのではないのでしょうか？

本展は日本庭園という、自然を人為的に再構成することで本来以上の意味を創造する拡張環境を舞台に、自然と技術とアートの結節点となる作品たちを茶の湯のプロセスになぞらえて配置します。そこは理想化された電腦空間でも素朴な自然世界でもない、様々な認知世界が響き合う場であり、同時に茶の湯が追い求めてきた幽玄の思想を継ぐものとなるはずです。

互いの認知世界を交換し、交感し、交歓しあう、
あらたなる生態系へようこそ。



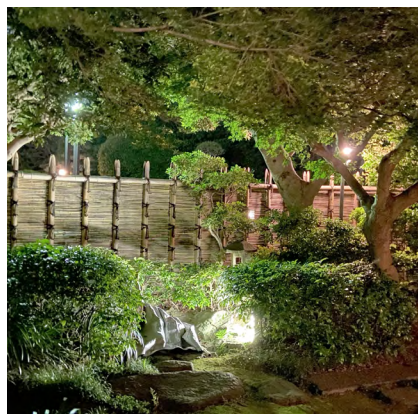
展覧会のみどころ

1. 伝統文化×新しい文化の発信
2. 日本庭園を舞台にした回遊型の鑑賞体験
3. 日暮れとともに始まる夜間限定の展覧会

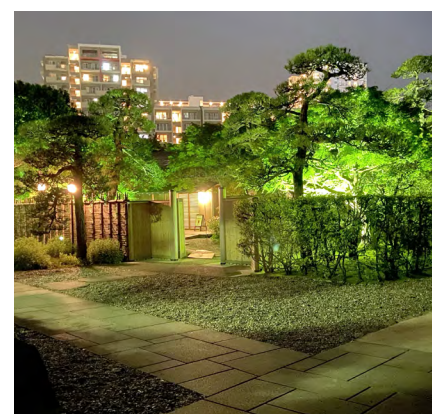
メディアアーティストやサウンドアーティスト、映像作家、建築家、人工生命の研究者、SF作家など多分野で活躍する気鋭のアーティストの作品が集結。日本の総合芸術ともいえる「茶の湯」のプロセスになぞらえて作品を配置します。



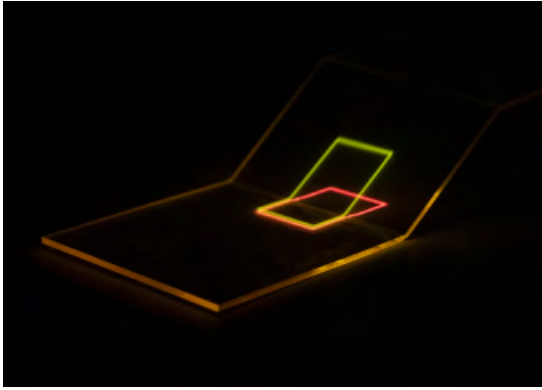
展覧会の会場は、幕張にある1.6haの日本庭園「見浜園」。自然を人為的に再構成した日本庭園で、自然と技術とアートの結節点となる作品を、園内を回遊しながら鑑賞します。



美しくライトアップされた夜の庭園内に、日本の総合芸術ともいえる「茶の湯」のプロセスになぞらえて作品を配置。夜の庭園を巡り、心身ともに没入しながら作品を堪能することができます。



注目作品



『光のレイヤー』

石川 将也 (アーティスト/映像作家/グラフィックデザイナー/視覚表現研究者)

「Layers of Light / 光のレイヤー」は、蛍光という身近な科学現象を用いた「光の彫刻」ともいべき立体アニメーション群です。この作品で用いている立体表示装置（特許出願中）はとても美しく如実な立体表現が可能ですが「最大3層まで」「色は3色のみ」という大きな制約があります。しかしその制約を活用し「仮現運動」など人間の認知の力を借りることで、驚くほど多様な表現が可能で、その様は映像の歴史、少ない情報量を人間の認知能力で補ってきた、メディア発展の歴史を思い起こさせます。今回の展示では、それを人工的に作られた自然環境である日本庭園の中で体験することで、自然を認知するために発達した能力をメディアに活用し、新しい表象を見つけ、発展していく、私たち人間の歩みの面白さを体感いただけるのではないだろうか。



『Unpredictable Filtration』

齋藤 帆奈 (アーティスト)

Unpredictable Filtration は、園内で採取された自然物で構成された濾過装置である。小川の水は小石や砂や枯葉の詰められたガラス装置の内部を通り、再び小川に戻る。一見水を浄化にして戻す装置のようだが、逆にバクテリアや不純物が増えてしまうかもしれない。しかし、バクテリアが増えたことで川の生物多様性が増すかもしれない。どんなバクテリアが増え、どんな物質が削除され、追加され、それは何者にどんな効果をもたらすのか、誰にもわからない。



『SHIZUKU - SHIRO#1, #2, #3』

Ray Kunimoto (サウンドアーティスト)

中空の亚克力球体、LED と蠕動ポンプを搭載した電子ユニット、循環する水からなる音響彫刻作品。水を張った球体の内部に水滴が落ち、LED によって照らされた波紋が球体の表面に浮かび上がり、水滴音が響く。

日本には、現在失われつつある水琴窟という音具がある。幽玄な水滴音を響かせる水琴窟は、16 世紀の日本で発祥し、茶の湯や日本庭園の文化とともに広がっていった。しかし産業革命以降の近代化された都市では昼夜を問わず騒音に曝され、20 世紀には忘れられる存在となっていった。

現実世界とバーチャル空間で静寂が日々失われる現代に、水滴音によって静寂を共存させることはできないだろうか。



『BioSculpture』

田中浩也研究室 +METACITY

複数の自然素材にデジタル技術で新たな立体構造と配列を与え、大型 3D プリンティングで出力することで、生態系の一部をつくりだす、「人新世」の社会彫刻を模索するプロジェクト。今回製作した『ひだ構造の器』は、赤玉土と初殻からなり、さらに 9 種類の苔が互いに共生するように表面に配されることで、温度・湿度・CO₂・空気の汚れ等を自律的に調節する機能を持つよう設計されています。この彫刻が、ある環境下に置かれ、時間の経過とともに、潜在していた見えないう生態系の姿が顕在化してきたとき、真の意味での完成となるでしょう。

注目作品



『Rediscovery of anima』

後藤 映則 (アーティスト)

"Rediscovery of anima" は軽石、土粘土、木、麻紐によって構成されており、細長い線状の太陽光に当てることによって、人や動物の動きが現れます。これらは旧石器時代のショーヴェの洞窟壁画（フランス）に、すでにアニメーションの発想が描かれていたという仮説にインスピレーションを受けて制作されました。人類の動いて見えることへの渴望や魂が宿ったかのように見えることへの関心を、フィクションとしてありえたかもしれない歴史の一つとして考察しています。

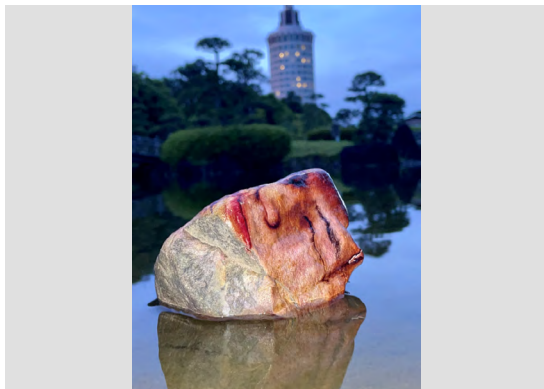


『The power of muscle with plants. もし植物に筋肉があったなら』

滝戸 ドリタ (アーティスト / ディレクター / デザイナー)

植物が私達のように筋肉を持ったら、彼らは何を求めようか？移動するだろうか？そして、私達に駆け寄るだろうか？動物とは違う生き延びる能力や異なる時間のスケールを持つ複雑多様な植物。持ち得ない筋肉を持つ事で、知り得ない存在への想像力を生み、私達が何を取り戻し、手に入れようとしているのかを問う。

植物に人工筋肉やロボティクスの技術が装着され動き出す。人類の欲望と希望を抱きながら、私たちが生存する意味を捉え直そうとする作品。



『Image Cemetery』

ノガミ カツキ (現代アーティスト)

現代の魂はインターネット上に宿る。故人の誕生日が Facebook で毎年祝われ、そのアカウントのフォローは中々外せない。それらの画像は死後存在感を放ち、スマホの中には日々画像が溜まっていく。しかし、押し入れの奥に眠る昔のアルバムの様な重さは無い。

これらのデジタル画像の存在感を石に憑依させる事で感じてもらう。僕は成長と共に感じる死への恐怖から日々の肌日記をスキャナーで記録している。画面に張り付く顔を墓石の様に埋め込みデジタル画像の保存の一つとして、古代からの記録媒体である石に書き込む事で自分を未来へ残したい。



『Fictional Soundscapes』

田中 堅大 (都市音楽家)

都市は、人々の心の中で思い描かれ、想像される概念的な現象であるとするなら——。この《Fictional Soundscapes》は、あらゆる都市における環境音をミックスし続けることで、架空の環境音を生成するプロジェクト。世界中のあらゆる地点からの環境音が、海浜幕張駅周辺の情報と連動することで、耳馴染みがあるけれど、実際にはどこにも存在しない都市の環境音が立ち現れる。人々の雑踏、路面電車、海や森の囁き——これらが混じりあった架空のサウンドスケープから、あなたはどのような都市を思い浮かべるだろうか？

『METACITY』について

『生態系へのジャックイン展』は、METACITY（メタシティ）が企画する初の展覧会です。METACITYは、芸術文化を豊かな未来を創造するために必要な社会インフラとして捉え、従来の都市設計とは異なる考え方で、芸術文化を育み続ける「ありうる都市」を思考実験とプロトタイピングを通して探求するリサーチチームです。

2018年から活動を開始し、2020年6月に一般社団法人化。現在、茶の湯のアート集団「The TEA-ROOM」、雑誌「WIRED」、エンジニア集団「CARTIVATOR」、4D ファブリケーションラボ「田中浩也研究室」、都市研究の研究室「MIT Media Lab City Science Group」とそれぞれ協働プロジェクトを実施し、40名ほどのアーティストや研究者やエンジニアが活動しています。

Web サイト <https://metacity.jp>



『千の葉の芸術祭』について

千の葉の芸術祭は、写真表現に触れることを通して私たちの世界を捉えなおす「写真芸術展」、伝統的文化とその革新へ挑戦的に取り組む「伝統文化・新しい文化の発信」、感じながら考え、創造することについて学ぶ場「体験・創造ワークショップ」の3部門で構成される、千葉市で初めて行われる芸術祭です。

『生態系へのジャックイン展』は、『千の葉の芸術祭』のプログラムとして開催します。



『見浜園』について

「日本の伝統的文化を表現し、接してもらうこと」を目的としてつくられ、国内外を問わず様々な方に日本の伝統文化に親しんでいただける面積約1.6haの日本庭園です。池泉回遊式庭園で、山や川、海、林などが表現されており、歩きながら、四季折々に変化する景観の自然美を満喫できます。下の池には舟着や洲浜、出島・中島、橋が配され、また周囲にはあずまや、築山や園路など様々な意匠が施されています。園内には数奇屋造りの茶室「松籟亭（しょうらいてい）」があります。



プレス向け内覧会のご案内

本展開催に先立ち、下記の通り内覧会を開催いたします。
ご多忙と存じますが、是非ご観覧・ご取材頂きますようお願い申し上げます。

内覧会日時：2021年7月23日（金）18:50 - 21:00 ※受付開始 18:30 / 最終入場 20:30

内容：18:50-19:20 オープニング（展覧会概要説明、作家紹介）
19:20-20:20 グループごとのガイドツアー（約1時間程度）

申込み：内覧会へ参加ご希望の方は、下記の URL より7月16日（金）までにお申し込みください。
<https://bit.ly/3uhwF6l>

【生態系へのジャックイン展に関する取材・お問合せ】

一般社団法人 METACITY 推進協議会（担当：瀬賀） Email: pr@metacity.jp

【千の葉の芸術祭に関するお問合せ】

千の葉の芸術祭実行委員会事務局（千葉市市民局生活文化スポーツ部文化振興課内）
〒260-8722 千葉市中央区千葉港1番1号（千葉市役所8階） Email: bunka.CIL@city.chiba.lg.jp Tel: 043-245-5961

【広報画像のダウンロード】

プレスリリース内で使われている画像は下記の URL よりダウンロードできます。

http://bit.ly/jackinto_PR

*新型コロナウイルス感染症の状況や天候等に応じて、延期や中止、内容の変更などが発生する可能性があります。予めご了承ください。